

山形の宝より詳しく



「未来に伝える山形の宝」の最新版リーフレット

県教育委員会は、県内の文化財を地域で守り、活用する団体を支援する制度「未来に伝える山形の宝」に関し、登録団体を紹介する最新版リーフレットを製作した。団体による各種イベント情報を充実し、県内外の観光施設などで無料配布しPRしている。

同制度では、最上川の文化的景観や自然的特性を生かした「重点テーマ」、地域の自然や歴史、文化を生かした「推奨テーマ」に分類し、現在は計19団体の取り組みを支援している。リーフレットではそれぞれを写真付きで紹介し、おおよそA3サイズの折り畳み式。

県教委が製作 19団体、年間予定網羅

登録団体が開催している公演、イベントの年間スケジュールを網羅した。夏休み期間中の主な催しは、城下町の面影を残す酒田市松山区(推奨テーマ)が記念展示会(23日～9月11日)を予定。鳥海山信仰とつながりがある宿坊集落などの景観を守る遊佐町蔵岡地区(推奨テーマ)では、国指定重要無形民俗文化財「杉沢比山」の上演(8月6～20日)が行われる。

リーフレットは宮城、福島両県内の高速道路のサービスエリアなどでも提供中。今後は県内各地のファミリーマートにも置く計画。有形無形の文化財に関しては、このほど文化庁の「日本遺産」に本県から初めて「出羽三山地域」が選ばれたこともあって、県教委は「相乗効果を生み出せるようにアピールしていきたい」としている。